



NIE 教育に新聞を

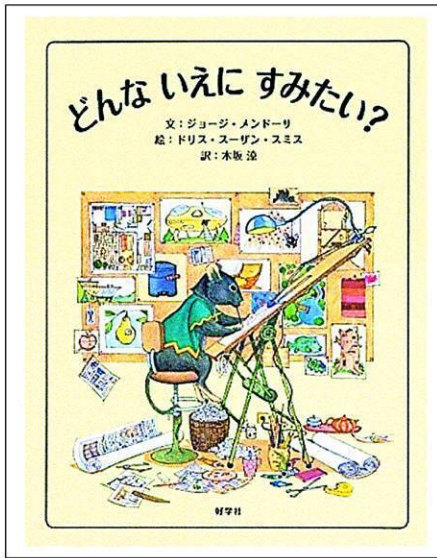
4

小学1・2年生向け

### どんないえにすみたい？

ジョージ・メンドーサ文 ドリス・スーザン・スミス絵 木坂涼訳

ねずみのヘンリエッタは世界的に有名な建築家です。さまざまな動物の依頼で、家の設計やデザインを手がけています。海の楽園のような家を望んだますには、水中に彫刻やステンドグラスを配した豪華な住まいを、家でゆったり過ごしたいきつねには、野原の地下に暖炉やソファを備えた広々とした家をつくりました。どの家も依頼主の願いをかなえつつ、ユニークで美しいデザインに、ヘンリエッタのセンスが光ります。満足げな動物たちの様子から、住み心地の良さも伝わります。「自分ならどんな家を頼もうかな」「自分で建てるならどんな家がいいかな」。たくさんの家をながめながら、想像がふくらむ絵本です。



(好学社 1980円)

小学3・4年生向け

### みりょくを伝えよう 未来につなぐ

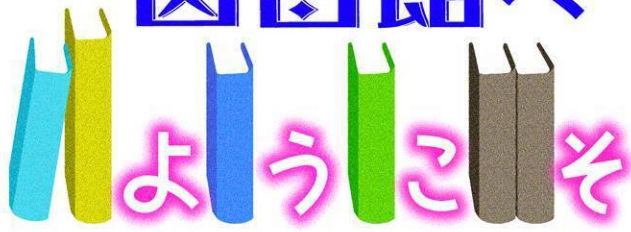
工芸品③住 笠原冬星監修 303BOOKS編

工芸品とは「地域のくらしに根づいて発展してきた製品」のことです。その中でも100年以上の歴史を持つものは国の指定を受けて「伝統的工芸品」と呼ばれ、貴重な技術が受け継がれています。この本は衣・食・住のシリーズの一冊で、文具や木工品などの工芸品の特徴や製作の場面を写真付きで解説しています。たとえば、島根県の特産「雲州そろばん」は、木材を半年以上乾燥させて「珠」に加工し、珠を通す「芯竹」は細く割いた竹を丸くなめらかに磨き、珠の動きの良いそろばんに仕上げます。優れた伝統工芸品の多くは職人の手作業から生まれます。その技と工程をくわしく知ることができます。



(汐文社 3080円)

## 図書館へ



## 暮らしを支えるものづくり

皆さんの身の回りの物は、どのように作られているのでしょうか。今回は、建築士や伝統工芸の職人、宮大工、商品の開発や生産にたずさわる人たちにに関する本を紹介し、暮らしを支え、伝統を伝える「ものづくり」の仕事がテーマです。

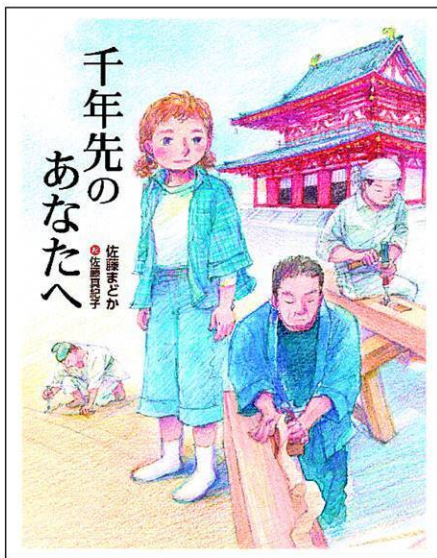
(山梨県立図書館 佐久間絵梨) = 毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

### 千年先のあなたへ

佐藤まどか作 佐藤真紀子絵

小学校5年生の坂口杏には、宮大工として働き始めた8歳上の姉・花梨がいます。仕事に打ち込む姉が長い髪をぱっきり切り、毎日へとへとで帰宅する姿を見て、杏は少し不安になります。ある日、花梨の勤める会社で「小中学生の見学デー」が開催されます。参加した杏は、日本の社寺建築にたずさわる宮大工の仕事について学び、厳しい修業に励む姉の思いに気づきます。そして、建築には杏の得意な「算数」が欠かせないと知り、将来の職業について考えるようになります。宮大工の仕事の魅力やその技術の素晴らしさを伝える物語です。読後は、杏のように「あしたは近所の神社やお寺に行ってみようかな。」と思うかもしれません。(BL出版 1760円)

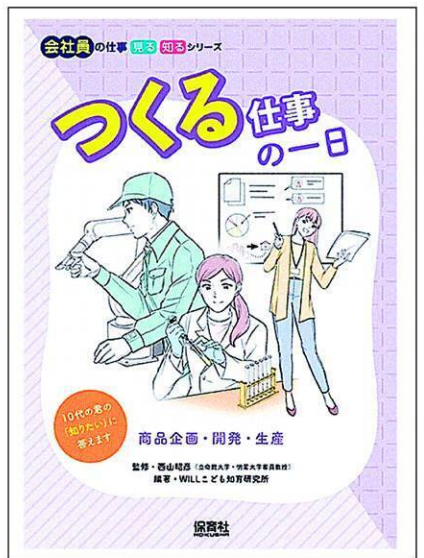


中学生向け

### つくる仕事の日

西山昭彦監修 WILLこども知育研究所編著

一つの商品が、私たちの手元に届くまでには、さまざまな職種の人が、多くの工程を分担し協力してつくり上げています。この本では、文房具メーカーの商品企画職、日用品メーカーの研究職、精密機器メーカーの生産技術職として働く3人のつくる仕事の1日を紹介しています。文房具メーカーの商品企画職の社員は、入社後すぐに幅広い分野のニュースに目を通します。「人々がどのような商品を探しているのか」というヒントを見つけるためです。また、店舗での調査やSNS(交流サイト)での宣伝も行います。ほかにも、ゲーム会社やスポーツ用品メーカーで働く人へのインタビューもあり、これまで知らなかった「つくる仕事」を発見できるでしょう。



(保育社 3300円)